

漁況予報 い わ し

第182号

【2014年3～4月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、1月は初漁日の5日から1週間程度、西湘地区でまとまった来遊があったこともあり、110トンと前年(29トン)及び平年※¹(48トン)を大きく上回りました。2月は24トン(速報値)で、不漁の前年(6.5トン)を上回りましたが、平年(101トン)を大きく下回りました。

まき網は、東京湾側では漁獲がありませんでしたが、相模湾側では1ヶ統に計2トンの水揚げがありました。

魚体は、2ヶ月とも2013年生まれの0歳魚主体に大羽混じりと推定されます。

今後も引き続き明け1歳魚(2013年級群)が漁獲主体となると考えられますが、沖合海域からの暖水波及により、大羽マイワシの産卵群が来遊することも期待されます。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、1月は260トンで、不漁の前年(116トン)を上回り平年(225トン)並となりましたが、東京湾側の金田湾の小型定置ではこの時期としては経験したことのない程の大漁であり、餌イワシとして漁獲しました。2月は530トン(速報値)で、不漁の前年(62トン)及び平年(335トン)を大きく上回り、予測を大きく超える漁獲量となりました。

鴨居地区及び佐島地区(1ヶ統)のまき網は餌イワシとして断続的に漁獲し、佐島地区(1ヶ統)では計300トンの水揚げがありました。魚体は、8cm前後の未成魚主体に10～14cmの小～大型成魚も例年以上に多く混じりました。

【シラス】

前号でお知らせしたとおり、当所ではしらす船曳網漁業連絡協議会の協力により、今年もシラスの禁漁期間中(1月1日から3月10日)に、相模湾内で試験操業を実施しました。今年の調査による漁獲量は、昨年ほどの採集量には至らず全体としては低調に終わりました。1月は越冬カタクチシラス主体(全長30mm以上)にウルメシラス混じりで、花水川河口沖ではマシラスも混じりました。2月は1月以上に魚群反応がありませんでした。3月の調査では春シラス漁に繋がる全長15mmから20mm前半の新仔を採集することができましたが、1網3gから125gの採集量であったことから、本格的な来遊はまだまだといった感じでした。

また、親となるカタクチイワシ大型成魚群の前年11月から2月までの漁況も、前年同

様低調に推移していることから、3、4月のカタクチシラスの来遊量も少ないものと思われます。

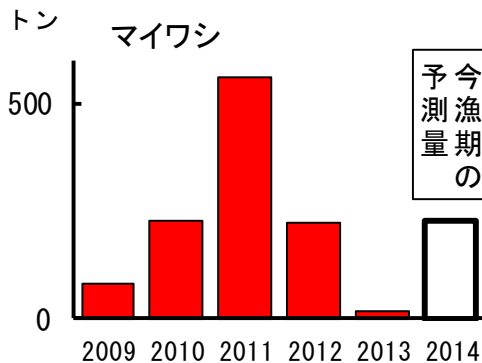
= 予 報 =

過去5年の3・4月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2013年生まれのヒラゴ～小羽マイワシ（12～15cm）が漁獲の主体となるでしょう。また、概況でも書きましたように大羽マイワシの産卵群の来遊にも期待したいところです。

今漁期の漁獲量は、太平洋系群の資源量から、前年を上回る約 227 トンと予測されます。

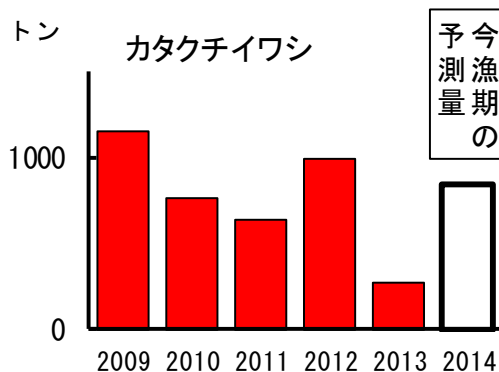


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、引き続き 2013 年生まれの未成魚～小型成魚（8～12cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、1～2月の県内主要定置網の漁獲量から、前年を上回る約 845 トンと予測されます。

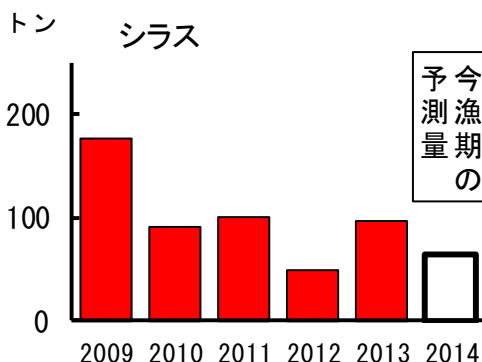


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、2月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、房総以北海域での冬春期カタクチイワシ大型成魚の漁獲量から、昨年を若干下回る約 63 トンと予測されますが、海況により予測値を上回る可能性もあります。



神奈川県水産技術センター企画資源部
三浦市三崎町城ヶ島 (046) 882-2312